

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 4 月 25 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463553

研究課題名(和文) 多職種協働による在宅精神障害者のためのアウトリーチ推進に向けた教育モデルの開発

研究課題名(英文) Development of Educational Models of psychiatric outreach by multidisciplinary cooperation

研究代表者

藤野 成美 (Fujino, Narumi)

佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：70289601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：まず、精神障害者アウトリーチの概念分析を行った。次に、地域活動支援センターにおいて精神障害者アウトリーチ支援を行う上での課題、精神障害者アウトリーチ推進に向けた行政保健師に求められる役割について明確化を行った。精神障害者アウトリーチ支援に関わる看護師、保健師、精神保健福祉士などに有用な教育プログラムを開発し、アウトリーチ支援において有用であるとの示唆を得た。今後は、追跡調査により長期的効果を明らかにしていく。

研究成果の概要(英文)：First, This study clarified the concept of psychiatric outreach, using the concept analytical method proposed. The present conceptualization of psychiatric outreach may be useful in psychiatric nursing practice. And then, To clarify the challenges in providing outreach support at community activity support centers, To clarify the roles of public hygienists as expected to perform during outreach activities with mentally ill persons. The program may be useful in psychiatric nursing practice. The process evaluation has demonstrated the short-term effectiveness on attitudes and knowledge. The impact evaluation is now under way.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神障害者 アウトリーチ 多職種協働

1. 研究開始当初の背景

わが国の精神保健福祉施策は、入院医療中心から地域生活中心へと移行しつつあり、一層の地域生活支援体制の充実が求められている。これまで、厚労省の検討会で退院促進事業を推進してきたが、退院後いかに地域に定着するか、課題の解決を入院に頼らないための方策が課題となっている。そこで2011年厚労省は「精神障害者アウトリーチ推進事業」を開始し、アウトリーチ支援の一般制度化を目指している(厚労省,2011)。アウトリーチとは、未治療・治療中断者に対し専門職チームが必要に応じて訪問支援を行い、保健・医療・福祉サービスを包括的に提供し、丁寧な支援の実施により在宅生活継続を前提とした支援体系である。アウトリーチ支援のアウトカムは再入院の減少と地域定着であり(厚労省,2011)、精神障害が地域で「その人らしい自立した生活」を継続することにより、各医療機関が病床削減に取り組む一手段となることが期待されている。そのためわが国の精神科領域において、アウトリーチ支援に関する研究は関心の高い研究領域である。

アウトリーチ支援の研究は、訪問看護や重度精神障害者に提供される包括型地域生活支援プログラム(Assertive Community Treatment:ACT)についての先行研究は多い(吉田 2011,Ito 2010)。ACT は欧米で広く実施され、多くの評価研究によりその効果が明確になっている(Bond GR,2003)。一方、その実施内容を明確に示唆する研究が少ないという問題点が数多く指摘されている(Bond GR,2000)。国内のアウトリーチ支援に関する研究は、多くが実践報告(渡邊

2011,野口 2011)であり、その中で個々の専門職の質向上の必要性、他職種を尊重するファシリテーション能力の育成や多職種協働の重要性が示唆されている。しかし、アウトリーチ支援の質向上につながる評価指標の開発や効果的な戦略についての研究は見当たらない。また、多職種間における具体的な協働の状況や支援者の質向上に向けた教育モデル構築に関する研究は現在のところ存在しない。したがって、わが国の精神科医療の実情をふまえた上で、精神障害者のエンパワーと QOL 向上を目指した医療と生活支援を包括的に提供する多職種協働によるアウトリーチ支援の推進に向けた教育モデルの開発は重要な取り組みとなる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神障害者が地域生活を継続するためのアウトリーチの効果的な支援内容や多職種間の協働の状況について明確にし、さらに多職種協働による在宅精神障害者のためのアウトリーチ推進に向けた教育モデルを開発することである。

3. 研究の方法

まず、精神障害者アウトリーチについての概念分析を行い、その後、アウトリーチ実践活動事例をもつ各専門職に対してインタビュー調査を実施し質的分析を行う。次に、概念分析の結果とインタビュー調査の結果を踏まえて、精神障害者が地域生活を継続するためのアウトリーチの効果的な支援内容や多職種間の協働の状況について明確にし、多職種協働によるアウトリーチ推進に向けた教育モデルを構築する。

4. 研究成果

1) 精神障害者アウトリーチの概念分析

Rodgers が提唱する概念分析の方法を用いた。文献は、医中誌 Web, PubMed, Scopus を用いて検索し、適正を判断し抽出した 34 文献を対象として、概念の属性、先行要件、帰結について質的に分析を行った。結果として、属性は精神障害者アウトリーチの支援過程を示す内容のカテゴリが抽出された。先行要件は精神障害者アウトリーチが必要となる前提要件であり、現在の地域精神保健医療における重要な課題であった。以上のことから、精神障害者アウトリーチは「在宅生活が困難な精神障害者に、対象の生活の場における課題を多職種チームで共有し、対象のニーズに沿った生活全般の支援を包括的に提供すること」と定義された。

2) 地域活動支援センターにおいてアウトリーチ支援を行う上での課題

地域活動支援センターにおいて精神障害者に対するアウトリーチ支援を行っている専門職 8 名に対して、半構成的インタビューの内容を分析し、アウトリーチ支援における課題を明確にした質的記述的研究である。結果として、地域活動支援センターにおいてアウトリーチ支援を行う上での課題は【行政や医療機関の担当者との連携不足】、【専門職による支援の質の差】、【インフォーマルサポートの不足】、【精神症状に対する対応の難しさ】、【支援に対する公的資金援助の不足】、【個別性を考慮した支援の難しさ】が抽出された。

アウトリーチ支援のアウトカムは再入院の減少と地域定着であり、精神障害が地域で「その人らしい自立した生活」を継続することにより、各医療機関が病床削減に取り組む一手段となることが期待されている。今後は個別性を考慮した多職種チームによる包括的支援を行うアウトリーチの取り組

みが重要であると考えられる。

3) 精神障害者アウトリーチ推進に向けて行政保健師に求められる役割

精神障害者に対するアウトリーチを行っている行政保健師 6 名に対して半構成的インタビューを実施し、行政保健師に求められる役割を質的に分析した質的記述的研究である。結果として、行政保健師が精神障害者アウトリーチを行ううえで求められる役割は【治療中断者や未治療者に対する危機介入】、【既存の精神医療システムにあてはまりにくい困難事例への介入】、【当事者を含めた家族全体への支援】、【多様性を評価する仕組みへの提言】、【当事者のストレスを高める介入】であった。

4) 多職種協働によるアウトリーチ推進に向けた教育モデル

多職種間のコミュニケーションや協働のための情報共有の方法、対象者のニーズをアセスメントするための専門的知識の共有、対象者の課題解決に向けた標準的ケアプランの作成・評価方法・各専門職の協働について明確化を行い、解決策を立案する経験的知識学習を可能とするモデルを構築した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

{ 雑誌論文 }(計 1 件)

1) 神谷優美, 藤野成美: 地域活動支援センターを利用する精神障害者の居場所感, *インターナショナル NursingCareResearch* 15(1), 2016, accept

{ 学会発表 }(計 2 件)

1) N Fujino: Concept analysis of outreaching mentally ill in Japan, 10th International Nursing Conference in Korea, 2015. 10. 22-23

2) Y Kamiya, N Fujino: Sense of a Place of Ones Own among Mentally Handicapped Users of Community Activity Support Centers in Japan 10th International Nursing Conference in Korea, 2015. 10.

3) N Fujino, Y Shigematsu: Challenges in providing outreach support at community activity support centers, The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 2016.7.1-3

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

藤野成美 (Fujino Narumi)
佐賀大学医学部看護学科・教授
研究者番号：70289601

(2) 研究分担者

岡村仁 (Okamura Hitoshi)
広島大学医歯薬保健学研究院・教授
研究者番号：40311419

(3) 研究分担者

重松由佳子 (Shigematsu Yukako)
尚絢大学短期大学部幼児教育科・准教授
研究者番号：90320390

(4) 研究分担者

藤本裕二 (Fujimoto Yuji)
佐賀大学医学部看護学科・講師
研究者番号：30535753

(5) 長家智子 (Nagaie Tomoko)

佐賀大学医学部看護学科・教授
研究者番号：70207976

(6) 末次典恵 (Suetsugu Norie)

佐賀大学医学部看護学科・講師
研究者番号：60363355

(7) 吉武美佐子 (Yoshitake Misako)

福岡女学院大学看護学部・准教授
研究者番号：50320388

(8) 山口扶弥 (Yamaguchi Fumi)

広島都市学園大学健康科学部・教授
研究者番号：60352051